

サービスの事例

< 通院の事例 >

認知症の傾向がみられる女性・85歳

複数の課の診察を受ける予定だが、自分では診察券を出したり、1日の受診の流れもわからない。

医師の診断も理解ができない。

- * 出かける際の身支度（服の脱ぎ着）
- * 戸締り
- * 病院での世話・付添
- * 診察室に入って診察を聞く
- * 話し相手（傾聴）
- * 会計、薬の受けとり
- * 次回の予約
- * 診察の結果を家族に報告

サービスの事例

< 通学の事例 >

養護学校の生徒 中学1年生

中学生になって、近くの小学校から遠くの中学校へ通う。
仕事で迎えに来れないお母さんに代わって毎日のお迎えを
依頼される。

目標は高校へは一人で「電車通学」ができるようになること！

* 中学2年生になってから、月に2～3回、最寄り駅から
徒歩で帰宅する練習をする。団体のメンバーも付き添
う。

* 高校は電車と徒歩で自力通学ができるようになる。

サービスの事例

< お出かけの事例 >

施設で生活・脳性まひの障がいを持つ女性・50歳
美術館での絵画鑑賞が趣味。今まで一人で出かけたことはなかったが、移動サービスと出会って毎月の外出が楽しみ。

たまの外出では映画や、レストランでの食事も！

- * 長時間の付添・介助
- * トイレ介助
- * 食事介助
- * 買い物のお世話
- * 話し相手（傾聴）
- * 一番大事なものは、一緒に楽しむこと！！

おでかけの様子



こんなニーズ どう応える？ 事例

< 一緒にお出かけ >

年をとっても遊びに行きたい！

通院は行かなければならないMUSTの需要、

でも、「行きたい！」WANTの需要は見過ごされがち、

わたしたちは年をとったら、家に引きこもりますか？

* 食事 * お花見 * 浅草仲見世 * 初詣

* おおぜいの人と一緒に過ごす時間は生活に活力を与える
「また行きたい、あそこに行きたい」という希望

* ケアマネジャーや家族の意向で「 さんを外出に参加させたい」という要望も増えている

事例 いっしょにおでかけ



個別の外出を支援する移動サービスの必要性

外出することは社会参加の第一歩

外出をあきらめている人が多い

➡ 「外出することで人は元気になる」



現状 = 障害者の外出に関する施策はタクシー券などがあるが、
高齢者の施策はない(介護保険/乗降介助のみ 取り組みが限定される)

外出支援から見えてきた課題

外出しにくい要因は・・・

外出に関する情報がない・相談できない

付き添ってくれる人がいないと不安

STSは料金が高くて使いづらい

高い理由:1対1の個別サービスであること

制度の支援がないことから

サービスを提供できる団体が少ない

2009年アンケートより(県地域保健福祉課協働事業)

移動サービスの今後



より使いやすいサービスにしていくには…

情報・相談機能の充実

団体の育成・サービスの充実

団体のネットワークづくり

など…

個別支援だけではない！福祉交通の充実

コミュニティバスの導入で、

高齢者や幼児のいる家庭の外出機会が広がる

個別支援の移動サービスと比較すると利用者の経済的負担が小さい

大和市西鶴間
市民参加でつくる地域交通



多くの人の賛同をつくる～自治会組織といっしょに～

住民に呼び掛けて、3回のワークショップ

準備会の設立

試運行の計画づくり

地域住民の合意形成をどうつくるか ...地区全体の説明会

7自治会説明会の開催 行政も支援体制を明確化



大和市・西鶴間の試運行の様子



足の悪い人も
少しの介助で乗り降り



大和市・西鶴間 試運行の様子

- ショッピングセンター近くで



- お友だち同士でお出かけ

大和市・西鶴間 市との協働で毎日10便運行へ

大和市との協働事業「のりあい」の運行

2010年4月、本格的な運行



「のりあい」の活動が
地域を動かす大きな力となっている。

～ 住民が自ら運行する公共交通の現場訪問 ～



大和市「のりあい」訪問

知事のコメント:

このような取り組みが、神奈川県
の他の地域にもモデルとして広
がっていくことを期待しています。



移動サービスの今後



いろいろな層がつくる「交通」で外出しやすい地域づくりへ！

* 地域交通計画に「福祉」の視点を。

ありがとうございました。